

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

＜※令和2年度からの3か年目標＞

1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「学校生活についての教員の指導」に関する項目で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には65%にする。
(H29 63%, H30 61%, R1 59%)

2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 将来教員を志望する生徒のための「教職トライコース」の教育課程実施に向けた準備を行う。令和3年度よりコース開始。
- (4) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (5) ICT機器の活用や研究発表活動、アクティブラーニングの機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (6) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
- (7) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。

【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率90%以上(R1 64.9%)。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計15人以上。(R1 10人)
※学校教育自己診断(生徒対象)の「進路実現に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には89%にする。(H29 82%, H30 85%, R1 83%)

3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には行事65%、HR73%にする。
(H29 行事59%、HR63%、H30 行事49%、HR60%、R1 行事59%、HR67%)

4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域のイベントや清掃活動等への生徒の参加機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者を毎年増員し、令和4年度には450人にする。(H29 400人、H30 460人、R1 300人)

5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題を抱える生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
- (3) 知的障がい生徒自立支援コースの生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「人権教育等に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には79%にする。(H29 70%、H30 75%、R1 73%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) 生徒との対話と学校生活における満足度の向上 (2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成 (3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実	(1) 生徒と積極的に対話を重ね、生徒が主体的に行動するよう働きかけるとともに、生徒の活躍を校内で紹介し、活気ある学校にする。 (2) ア 生徒が自ら考え行動するよう生徒にとって納得感のある指導を行い、自主的に社会規範を身に付けるよう計画する。 イ 授業やHR活動にディベートなどをこれまで以上に積極的に取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増加させる。 (3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気が高まるよう、教員のカウンセリングマインドの更なる充実に向けた研修等を実施する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※65% (R1 63%) (2) ア 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※61% (R1 59%) イ 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※68% (R1 66%) (3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※54% (R1 52%)	

2 進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育指導の再構築</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(4) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(5) 家庭学習の定着</p> <p>(6) 語学研修や国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 生徒向けの進路選択及び科目選択について、個々の教員のガイダンス能力を高める。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスステーションを活用するとともに、教員が生徒と対話を重ねながら、生徒のモチベーションを維持し、個々の進路選択について支援する。 <input type="checkbox"/> 将来、教員を志望する生徒を対象とした「教職トライコース」の教育課程実施に向けた準備を行う。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施すると同時に、先端的な教科指導に関する研修を開催し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 各教科が育てたい生徒と身に付けさせたい学力を確認し、3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」に向けた議論と教材の共有化を図り業務の効率化をめざす。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために教育産業による学力検査等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p> <p>(6) 海外語学研修を計画、実施する。海外から学校訪問を希望する生徒を積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> ①生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※ 84% (R1 82%) ②卒業時の国公立大学及び難関私立大学学合格者数の合計 15 人以上 (R1 10 人) <input type="checkbox"/> 2 年次の教育課程となる「教職講義」等の開講に向けて、準備と調整を行う</p> <p>(2) ①生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 ※69% (R1 67%) 授業アンケート全教科平均値の向上 ※3.22 (R1 3.18)</p> <p>(3) R1 年度 教員相互の授業見学、教員研修・教科会議 (各 2 回) 「勉強クラブ」(R1 末設置)の運営。 教材の共有化について教員が「自己申告票」に各自記載。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における ICT 機器に関する項目の肯定的回答の向上 ※73% (R1 71%) <input type="checkbox"/> 会議室 (ICT 機器導入) や電子黒板の積極的な活用。 ※活用率 (70%/全教員) 会議室の ICT 機器活用で会議のペーパーレス化を図る。</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※54% (R1 52%)</p> <p>(6) 海外語学研修の実施。参加者 25 人目標。 (令和元年度実施せず)</p>	
3 特別活動の充実	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの生徒の積極参加を促し、生徒が自ら運営し実現したという達成感を獲得できるようにする。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) 対話的・主体的なホームルーム活動を行い、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※61% (R1 59%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※68% (R1 66%)</p> <p>(3) 「意見箱」の意見を反映 部活動参加率 ※58% (R1 56%)</p>	
4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 情報発信力の再構築</p> <p>(4) 大阪教育大学との連携</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学、中学校への学校案内における生徒主体の広報活動を展開する。 大教大と連携して新学校紹介リーフレットを作成</p> <p>(2) 曙川東地区等の清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の取組みを、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。 地元中学校との連携強化を図る。</p> <p>(4) 大教大との連携のあり方について検討。 大教大主催の教員志望者プログラムへの参加を積極的に薦める</p>	<p>(1) 広報活動への生徒参加者数 ※R2 370 人目標 (R1 延べ 361 人) ポスターやリーフレットを八尾・柏原・東大阪市中学校を中心に広く配布</p> <p>(2) 地域のボランティアへの参加者数 ※R2 延べ 350 人 (R1 延べ 300 人)</p> <p>(3) HP のブログ更新 50 回/年、学校説明会参加者数 延べ 550 人目標、地元中学 3 年生を本校に招く「翠翔 day」開催</p> <p>(4) 連携メニューの課題等整理し、両校生徒にとって意義のある連携のあり方について検討する。 「教師まっすぐ」への参加者数 10 人目標</p>	
5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p> <p>(3) 自立支援コース生徒との交流促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化とともに、いじめに対しては、早期発見に努めるとともに、事象に対しては、組織的に迅速な対応を行う。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p> <p>(3) 自立支援コース生徒への教育活動を通じた「ともに学び、ともに育つ」教育の一層の充実。生徒の自己肯定感の育成とともに、コース生以外の生徒との協働作業を通じて相互理解を深め、信頼し励ましあう関係を作る。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※75% (R1 73%) いじめに関するアンケートを年 1 回実施</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※51% (R1 49%)</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※R1 年度 73% → 75% 目標 自立支援・共生推進卒業生アンケートにおいて同級生の肯定的回答の向上</p>	